Collaboration City 21

社団法人 三原青年会議所新聞

やっさもっさ

2002年4月20日 No.290

■発行／(社)三原青年会議所
■編集／広報委員会
三原市皆実4丁目8番1号
(三原商工会議所内)
TEL (0848)63－3515
FAX (0848)62－1141
ホームページ
www.mihara-jc.com
Eメール info@mihara-jc.com

2002年三原JCスローガン

2002
創 発

一人ひとりの胸に火種を起こせ！
その火種を移し、大きな火を起こそう！

今月号の記事

1面 3月例会「3･2･1秒読み開始!広域合併、どうする？どうなる？未来のみはら」
2面
3面 ミスやっさ募集／キャンペーンテーマ決定
4面 わんぱく相撲 三原場所／市民活動団体紹介／三原JC新入会員募集／他

みたか・きいたか

◆芸能スキャンダルばかりだったかつてのワイドショーも、昨年の小泉内閣発足以来政治の話題が盛りだくさんである。メディアの影響力は絶大で、政治に無関心な人々にもなんらかの興味をもたらしたのではないだろうか。◆しかし最近の国会では、政治家にまつわるいくつかの疑惑についての議論ばかりがなされ、肝心な国策についてはあまり議論されていないように思う。疑惑についても今もって真相は明らかにされずただ貴重な時間だけが無駄に費やされているようだ。◆私たち国民が政治家に期待することは、可能な限りガラス張りな情報公開の中で、私たちの利益に沿った国策について誠意と熱意をもって取り組んでいただくことだ。◆合併論議が高まりつつある私たちの“まち”においても、できる限りの情報公開をしていただき、地域住民と共に協働で真摯に“まちづくり”に取り組んでいただきたい。そして合併が現実のものとなった暁には、地域住民が生き生きと過ごせる活力ある元気な“まち”の話題でメディアを賑わわせたいものである。

三原JC
3月例会

未来の『みはら』

広域合併 どうする？ どうなる？

去る3月19日（火）地域主権実践委員会（平野裕輔委員長）は、三原国際ホテルにおいて「3･2･1･広域合併、秒読み開始！～どうする？どうなる？未来のみはら」と題し、3月例会を開催致しました。

広域合併の動きは、ますます活発化してきており、新聞に合併の文字が見当たらない日はないといっても過言ではありません。我々の地域においても、本郷町、瀬戸田町、久井町、三原市の一市三町で6月の任意協議会設立に向けて、慌しい動きになってきています。まさに今、我々の住む「まち」の未来を決定する大事な時期を迎えており、私達住民も現状を把握した上で、未来のまちづくりに向けてフレキシブルな行動を起こしてゆかなければならないのではないでしょうか。

本例会では三原市長五藤康之氏、広島県地域振興部　市町村分権総室市町村合併推進室室長山本航三氏、「住民による合併を考える会」より勝村憲明氏をパネリストとしてお招きし、各立場から広域合併への取り組み方や現在の状況など、未来のまちづくりについてパネルディスカションを開催致しました。

広島県・三原広域での現状は？

伊達理事長

県内では、各地域で任意協議会設立など広域合併が活発化していますが、それぞれの立場よりリアルタイムな状況をお聞かせください。

三原周辺地域では本郷町、瀬戸田町、久井町、三原市との枠組みで6月に協議会を立ち上げられる予定と伺っております。県としては取り組みに対して、必要な職員の派遣、必要な情報の開示、検討に必要な資金などしっかりバックアップしてゆくつもりです。

山本室長

山本室長

県では、合併のパターンを提示して、早い時期での取り組みを各地域の市町村長をはじめ、議員の方々に推進してきましたが、思いのほか早く県内全域で合併協議の場が立ち上がりつつあります。その理由としては、合併しないと各市町村において財政状況が非常に厳しくなってゆくこと、県知事が熱心に合併問題について取り組んで、全国でもトップクラスの支援対策をしているからだと思われます。

五藤市長

新聞でも発表しましたが、三原市は住民アンケート結果を集計しました。市民の皆様は、一市三町の合併に対して「望ましい」と「どちらかと言うと望ましい」を含めると約7割の方が賛成されています。合併問題への関心度は、約8割の方が関心があるという結果を得ました。三原市周辺地域の状況ですが、久井町と瀬戸田町の町長は、「一市三町で望む」と表明されており、住民アンケートの中間発表で、一市三町の合併に半数近い賛成者がおられた本郷町につきましても、4月の中旬から再度、町長が説明会を開き、夏までには決定する予定になっています。

また、三原市の推進体制としては、昨年12月に設置した合併推進係を、4月1日付で合併推進課に移行し、議会と歩調を合わせながら6月の任意協議会設立に向けた展開をしてゆくつもりです。

勝村座長

勝村座長

今後、任意協議会や法定合併協議会が立ち上がってゆくと思いますが、そこへ住民側が関心を持ち、積極的に参加意識を持たないと、人任せな合併になりがちで、この合併は成功したことにはならないと考えます。「住民による合併を考える会」の活動は、住民にとって非常に重要になってくると思っています。参加人数は少ないですが、行政に私たちの意見を反映していただけるよう活動してゆきます。

本紙『やっさもっさ』は、１月から11月まで毎月１回発行し、新聞折り込みを中心に配布しております。何卒ご愛読ください。

※資源保護のため再生紙を使用しています。